

力をあわせて 市民協働のまちづくり

市民協働ってなんだろう



どうってなんだろう?

市民協働って何？

最近、「市民協働」という言葉をよく聞くね。

僕たちの周りには、一人でやるよりもみんなで協力した方が、うまくいくことがたくさんあるよね。同じように、「まちづくりの分野でも、市民と行政が協力して」ということなんだ。

まちづくりで協力？

道路や公園の建設などのハード分野から、健康づくり・人材育成などのソフト分野まで、住み良いまちを築くための取り組み全般をまちづくりというんだけど、そのまちづくりにいるいろいろな人や団体が、対等な立場で、お互いに責任と役割を分担して協力しているということなんだよ。

まちづくりにいろいろな人や団体がかわるの？

多くの市民の知恵と力を結集して、まちづくりをしていくということなんだ。

なぜ、市民協働が必要なの？

どうして市民協働でまちづくりをしないといけないの？

今は、市民の生活スタイルや価値観が大きく変化しているから、市役所が多様化する市民ニーズのすべてに対応することも難しくなってきたんだ。地域の課題も複雑化して

地域のことを一番良く知っている住民や団体の取り組みがとても大事なんだ。

うーん、難しそうね。

地方分権が進んで、地域の自治意識も高まってきているから、自分のできるころからまちづくりに参加している人も増えているんだよ。

近所の底力ってわけね。

地域のことを地域の人も知恵を出し合って解決策を考えていくと工夫する「市民の力、地域の力」さ。

自分たちの地域のことを自分たちで良くしよう活動することで、ますます地域への愛着もわくよね。

市民協働の主役って？

それで、市民協働のまちづくりにかわるのってどんな人たちなの？

僕たち市民一人ひとりの参加はもちろんだけど、町内会や自治会などの住民自治組織や、NPOやボランティア団体などの市民活動団体、各種団体、企業などさまざまな組織や団体が大きな役割を持つんだ。

いろいろな組織や団体がかわるのね。

いろいろな立場や団体の人たちがそれぞれ役割分担して、得意の分野で力を発揮すれば、市役所だけではできなかった新しい形のまちづくりができるんだ。もちろん、市民協働に取り





★ 指針は市民協働の道標 ★

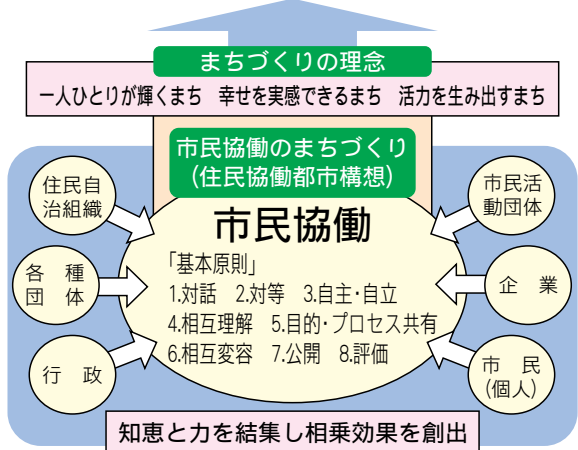
みちしるべ

市民と行政との協働を進めていくためのガイドラインとして、昨年2月に、「市民協働のまちづくり指針」を策定しました。

指針では市民協働の基本的な考え方などがまとめられ、市民協働の原則として次の8つを掲げています。「対話」「対等」「自主・自立」「相互理解」「目的・プロセス共有」「相互変容」「公開」「評価」、なかでも対話の原則は協働を進めるうえで基本であり、相互理解に基づく信頼関係を築き、協働の目的を共有するために不可欠です。

この指針は、公募の市民をはじめ、学識経験者、各種団体・市民活動団体、

「海・山・空 夢ひらくまち」



住民自治組織の関係者などで構成される懇話会で協議・検討され、市民や市民活動団体などへのアンケートや意見交換会などを経てまとめられました。

組む市職員意識改革も必要なんだ。私も自分でできるところからまちづくりに参加してみようかな。

関心のある分野からかわっていきと楽しいし、充実感もあると思うよ。

地域を好きになることからスタート

でも、具体的に何をしたらいいのかわからないわ。

今でも、市民協働でまちづくりが進んでいる分野はたくさんあるんだ。たとえば「放課後子ども教室」。

子どもたちが安心して活動できる場所を提供しようと、地域の人が積極的に参加しているんだ。ほかに、環境の分野では、市内5地域に「みはらし環境会議」が設立されて、地域で取り組みや情報交換などがされているよ。子育てや高齢者支援、防犯・防災、芸術文化、スポーツなどでも市民協働が進んでいるね。

身近な分野もあるのね。

まずは地域の魅力を見つけて、地域を好きになることからスタートさ。

三原が好きだから市民協働でまちづくりをするのね。なかなか、市民協働についてもっと知りたくなかったな。

だったら、昨年策定した「市民協働のまちづくり指針」があるよ。

これは、これから市民協働のまちづくりを進めていくうえで、みちしるべとなるものなんだ。市民協働のルールとも言えるものだから、参考になると思うよ。

どこで見ることができるの？

市役所のまちづくり推進課や各支所地域振興課にあるよ。市のホームページからダウンロードもできるよ。

市民協働を進めよう！

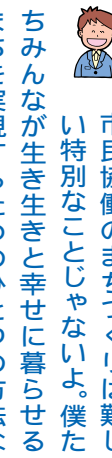
これから、いろいろな市民協働が進んでいきそうね。

市では、市民協働のまちづくりを進めるための仕組みづくりや環境整備のために、「市民協働のまちづくり推進計画」を策定中なんだ。

住み良いまちにしていきたいために、私たちもできることから、まちづくりに参加しなくっちゃね。

市民協働のまちづくりは難しい特別なことじゃないよ。僕たちみんなが生き生きと幸せに暮らせるまちを実現するためのひとつの方法なんだ。市民協働によって、三原をもっともっと素敵にしたいね。

市民の力と地域の力、市民協働でまちづくり！



地域の力



言葉のツボ

住民組織活動補助金とは

地域課題の解決や地域活性化などに取り組む住民組織を支援するために、今年度新設された制度です。住民組織が主体となつて行う地域での祭りやイベント、清掃などの地域活動や人材育成の研修、講座の開催などに活用できます。

協働体制の強化のために「対話」を！



大和町自治振興会長
大和町協議会
連絡協賛 十番場 隆太郎さん

のために、他の住民組織と連携をし、行政と協働の取り組みでいっしょに元気をまわす取り組みをしています。食と郷土芸能の祭典として地域の皆さんから強い声援をいただいています。また、住民組織活動補助金を活用し、自治意識の高揚を目的として年二回の講演会や視察研修を実施しています。今後、行政との協働体制の強化が必要ですが、まちづくりにおいては行政と住民組織が対等の立場で対話をさらに進めることが協働の取り組みにとって基本的に重要だと思えます。

キーワードは「お隣さんとの交流」



中之町連合自治会
会長 清石隆治さん

遠くの親戚よりご近所の力。最初の一步を踏み出すために、みんなで集まろうと呼びかけました。顔見知りになることから、何かが生まれるだろうという思いでした。交流事業を開催するのに、市の住民組織活動補助金を有効に活用できました。中之町の地域性として、若い人が多い地域もあれば、高齢者が多い地域もあります。年齢構成によって、まとまって行動するには難しい場合もあるので、それぞれの地域の特性を生かした取り組みが必要だと思えます。

地域に魅力を持たせることで、関心や愛着が生まれるような、地域資源を活用した仕掛けを模索しています。

知識を広げ町民の融和を図ろう



本郷町町内会長連合会
会長 兼本達雄さん

融和を図ることをモットーに、毎年一回先進先例地視察研修を行い、防災やまちおこしなどに役立てています。視察で学んだことを生かし、地域でサロンを立ち上げ、対話の場を作り参加を呼びかけています。町内会全体の加入率は低下傾向にある一方で、若い人が多い団地では防災の取り組みがうまくいっている所もあり、ますます若い世代の加入が期待されます。地域でできるところから取り組んでいこうと思えます。

自分たちでできることは自分たちで



久井町自治区連合会
会長 東吉則さん

行政ではなく地域で、自分たちで何か始めようと、昨年からはふれあいまつりが始まり、今後久井の祭りとして定着し地域の活性化につながればと期待しています。また、今年度のウツシツシ祭へは各自治区から地域の伝統芸能を出し合い、大盛況となりました。今後も研修などを行い、自治組織として意識改革を図っていくとともに、もつと行事にも参加し、元気ある久井を守っていききたいと思えます。すべてを行政に頼るのではなく、役割分担し、自分たちで

できることは自分たちで取り組んでいくことがこれからの市民協働のまちづくりに必要なことだと思えます。

市民の力



▲梨羽城跡で北方小学校の児童たちと、モミジなどを植樹

人が元気になれば、地域が 元気になる

この2月で発足から7年を迎えます。発足のきっかけは、子どもたちの遊んでいた梨羽城跡が荒れ果てているのを見てなんとかしたい、その再生を地域のみんなで取り組むことによつて、大人も子どもも集まって、昔のような交流につなげたいと思つたからです。

歴史的・文化的にも地域のシンボルである梨羽城跡やその周辺を整備することで、地域の里山を大人と子どもたちが自ら体験し、それぞれの交流も生まれています。交流を深めればみんなが元気になるし、明日への活力にもなります。

行政に整備してもらい、住民がそれを活用するといつても、人はなかなか集まらないし、継続していきません。地域住民が動いて基盤をつくり、行政と協働する。それが活動の理想だと思えます。

ふるさとを大事にしたいという気持ちを持ち続け、これからも活動の輪を広げていきたいです。



NPO法人 森のおさるさん
理事長 片山忠行さん

音楽で三原に笑顔の花を咲かせたい！

メンバーの付き合いは古く、もともとは福祉のボランティア活動を通じて知り合った仲間です。

天満屋に寄贈された一台のピアノが「直美の部屋」誕生のきっかけに。ロビーに展示されていたピアノで生の演奏を聞きたい！という思いに、

他のメンバーも共感してともに動き出すことになったと語る代表の三好フミコさん。気軽に音楽



毎回コンサートに合わせて美家に帰省するファンもいるほどです

にふれたいという純粋な気持ちは、1年がかりで実を結びます。1回目は平成17年4月の、旧ペアシティ三原東館天満屋1階ロビーでのコンサート。活動場所をペアシティ三原西館2階の市民ギャラリーに移した今も、毎月1回の活動を続けています。入場無料で続けていくため、出演者の音楽家にはボランティアで協力してもらっています。そんな中で、平成19年度から「まちづくり支援事業」での助成を受けることができ、行政の応援に心強い思いがするという三好さん。

親子で楽しめる「ママと一緒のコンサート」も好評です。コンサートを重ねるごとにファンも増え、JR三原駅前

周辺の商店街や施設との交流も生まれ駅前のにぎわい創出にもつながっています。音楽を通じて広がった共感と支援の輪はメンバーを勇気づけます。

三原を音楽のまちにしたいという「直美の部屋」の思いは、確実に笑顔の輪を広げています。



「直美の部屋」代表の三好フミコさん(右)と坂井禮子さん

4月号から、市民活動団体などの紹介を連載する予定です。

皆さんのまちづくりを応援します ボランティア・市民活動サポート センターを利用してください

ボランティア・市民活動サポートセンターは、ボランティアをはじめ、環境や教育、防災安全など幅広い分野においてまちづくりを進める個人や団体の皆さんの地域活動を支援しています。主に、ボランティアや市民活動に関する相談・情報提供、活動希望者と活動依頼者をつなぐコーディネートなどを行なっています。また、災害時には、災害ボランティアセンターとして被災者支援も行なっています。

地域の課題は地域で解決しようとする地域力・主体性のある活動力こそ、協働のまちづくりを進めていくうえで大切な原動力です。サポートセンターは皆さんとともにまちづくりを行いたいと思っています。気軽に相談してください。ぜひ、サポートセンターを利用し、ともにまちづくりを進めましょう。

受付時間 月～土曜日(祝日を除く)

8時30分～17時30分

サン・シープラザ4階 ☎08448

☎93339 FAX 08448 ☎0599

※本郷久井・大和地域へも、毎月ボランティア・市民活動なんでも相談を行なっています。



ボランティア・市民活動サポートセンター
小川和子さん



まちづくり活動講座

「まちづくり活動に取り組む人を応援する講座です」
 まちづくり支援事業の助成を受けようとする団体の人はぜひ参加を！

対象者 市民、ボランティア、NPO法人、住民自治組織など
 定員 各50人(申し込み先着順)

第1回 活動資金を集めよう・1 助成金申請のコツ

多くの活動団体の一番の悩みとなっている資金調達について、民間の各種助成金制度の紹介を交えて、助成金申請のコツを学びます。

とき 2月18日(水)18時30分～20時
 ところ サン・シープラザ4階 第1研修室
 講師 マツダ財団 永松貴文さん

第2回 活動資金を集めよう・2 自己資金調達のコツ

課題となっている資金調達について、自分たちで資金を生み出す方法について学びます。

とき 2月25日(水)18時30分～20時
 ところ サン・シープラザ4階 第1研修室
 講師 NPO法人広島レクリエーション協会 鍋島一仁さん

第3回 いろんな活動を知るチャンス！まちづくり支援事業活動団体発表会

まちづくり支援事業助成団体の活動発表を通じて、いろいろな活動に触れるとともに、活動団体間の意見交換を行い、交流を図ります。

とき 2月28日(土)9時30分～12時
 ところ 中央公民館 第2・3講座室
 コーディネーター NPO法人ひろしまNPOセンター 中村隆行さん

第4回 自分たちの活動をうまく伝えよう！情報公開と助成金

助成金の申請や活動のPRには、自分たちの活動を理解してもらう必要があり、助成金を出す側から情報公開の大切さとそのための効果的なプレゼンテーションの仕方について学びます。

とき 3月4日(水)18時30分～20時
 ところ サン・シープラザ4階 第1研修室
 講師 日本財団 荻上健太郎さん、NPO法人中国キャリアコンサルタント研究会 吉田 豪さん

申し込み先 まちづくり推進課 ☎0844886184 FAX0844886199

市民協働のまちづくり講演会

入場無料

大和会場

とき 2月21日(土)13時30分～
 ところ 大和保健福祉センター
 講師 庄原市敷信自治振興区区长 藤谷善久さん
 演題 敷信自治振興区のあゆみ
 ～誕生から今日まで～
 定員 100人(当日先着順)
 問い合わせ先 大和支所地域振興課 ☎084470222

市民協働のまちづくり講演会

入場無料

本郷会場

とき 3月14日(土)13時30分～
 ところ 本郷生涯学習センター
 講師 広島大学地域連携センター教授 塚本俊明さん
 演題 まちづくり～身近な地域からの発想～
 定員 130人(当日先着順)
 問い合わせ先 本郷支所地域振興課 ☎0844881111

皆さんの知恵と力をまちづくりに！

協働のまちづくりという考え方は、決して特別なものではありません。私たちのまちは、町内会や民生委員、自主防災組織など、多くの共助や自助の精神によって支えられています。このような、他人のため、みんなのためという利他的活動の源泉は郷土愛にあると思います。

三原は人口10万ですが、高速道路はもちろん新幹線、空港、港もあるなど、恵まれたまちです。私の故郷宮崎は東国原知事で有名になりましたが、彼をもつても新幹線など夢のまた夢です。また、三原には、環境や子育て、地域の活性化など、郷土を良くしようと取り組んでいる方々や団体があります。こうしたボランティア活動に参加してみると、思っていたよりおもしろかったり、人とのつながりができ、日々の元気の素になったりします。

市民協働はまちづくりのひとつの手段です。目的は、三原を誇りと愛着の持てるまちにすることです。ささいなことでも結構です。市民の皆さんの知恵と力をお貸しください。まちのために何かできることを、一緒に考えていきましょう。



市民協働推進委員会
 会長 近藤 敏
 (県立広島大学保健福祉学部教授)